

身体コミュニケーション/身体表現に関する基礎⇔実践研究



生活環境科学系・スポーツ健康科学領域

成瀬 九美

教授

NARUSE Kumi

博士(学術)(奈良女子大学)

■研究キーワード

身体表現の臨床的応用(ダンス/ムーブメントセラピー), 身体的コミュニケーション, 同調プロセスの可視化

■主な所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会, 日本保育学会, 日本バイオフィードバック学会, 日本ダンスセラピー協会, 日本心理臨床学会

■研究者総覧

<https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.5cf80c1d735f7a18520e17560c007669.html>



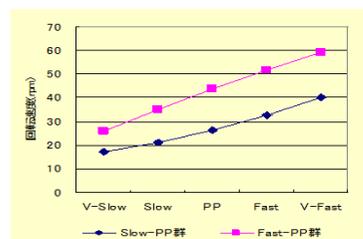
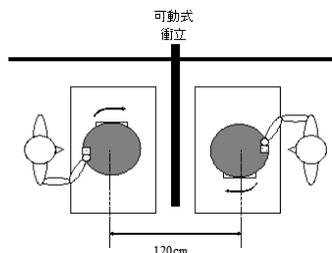
研究者総覧

研究概要

私の専門領域は身体表現学です。生命が続く限り、人のからだには「動き」が現れます。舞踊学や心理学, 身体運動学をベースとして, 外に現れていること<動き>と, 内に起きていること<感覚やイメージ, 思考>との連関について, ボディ・イメージ (Body Image), 身体感覚 (Kinesthetic Awareness), 運動性 (motility) などの要因に着目して研究しています。

ダンスや集団遊びなど, 人と人が動き合う場面のダイナミズムや同調プロセスを可視化し, 同調不全や過剰同調などの背景要因を探ることもテーマのひとつです。ダンス/ムーブメントセラピーの理念を踏まえ, これらの研究知見を活かした身体表現活動を実践しています。

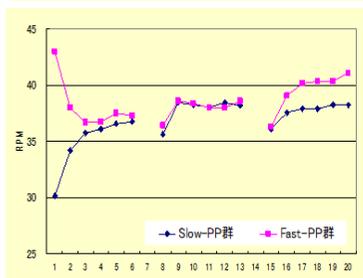
- ・Preferred Pace (快適動作速度, PP) に関する研究
- ・身体的コミュニケーションの同調プロセスに関する研究
- ・ダンスや表現運動が心身の健康にもたらす作用に関する研究 など



前腕回転計を用いたPP研究

上: その人固有のPPが心理的動作基準となり, 速い速度や遅い速度が作られる。

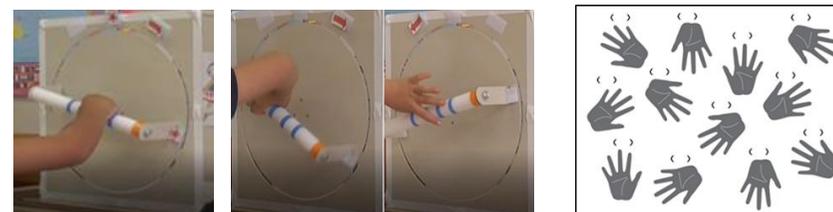
下: 速い速度志向群と遅い速度志向群の二者の調整プロセス (個別→二者, 二者, 二者→個別)



アピールポイント

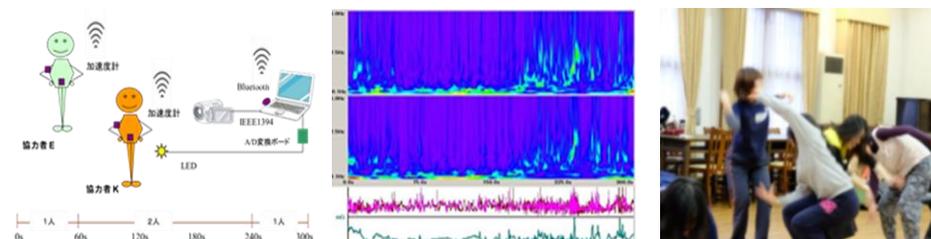
○自己身体への意識

近年, バーチャルな仮想空間での交流体験や没入体験が身近になるなかで, 身体感覚やボディ・イメージなどの身体意識に及ぼす影響が懸念されはじめています。幼児期や児童期の子どもの身体認知の発達を多角的に捉えるため, 棒を回転操作する棒回転課題や手足・表裏部位を刺激とするメンタルローテーション課題などの認知・運動課題を考案して研究しています。



○相互交流的調整(うごき・きもち・ことば)

ダンス/ムーブメントセラピー (DMT) は, 「個人の情緒的, 社会的, 認知的, 身体的統合を促進する一過程としてムーブメントを心理療法的に用いる」心理療法・芸術療法の一形態です。即興的に動くセッションでは, リズムや空間, イメージが変化し, 身体的コミュニケーションの同時性や相補性が色濃く, 豊かに表れます。



小型加速度計を用いた同調実験